

2022年3月、仙台教区に待望の新司教様が誕生しました。ガクタン エドガル司教様は、以前カリタス大船渡ベースでベース長を務めてくださっていました。懐かしい方が司教様として東北に帰ってきてくださり、私たちみちのくの仲間たちも喜びでいっぱいです。

新型コロナウイルス感染症の第七波が凄まじい勢いで広がり、さらに連日の猛暑も加わって、2022年の夏は大変な夏となりました。3月には大きな地震、夏はたびたび局地的な大雨も発生し、自然災害が続くこの数か月です。今号では、まずはガクタン司教様からのメッセージ、そして各地で活動している仲間たちからのレポートをご紹介します。11年前のようにボランティアさんが全国から駆け付けるのは難しい状況ですが、必要なところに支援が行き届き、大変な状況におられる方が一日も早く日常に戻ることができますように。

「あなたは一人じゃない」

仙台教区司教 ガクタン エドガル



2011年3月11日。その日の午後、わたしは兵庫県姫路市にある病院に入院中の神父のお見舞いに出かけました。病院への移動中、東日本で強い地震が起きたことが分かりました。お見舞いが終わった後、病院の廊下に設置されたテレビに妙な映像が流れていたのを見たからでした。海水が車や小型飛行機、さまざまな浮遊物を巻き込みながら流れている映像でした。強い地震によって引き起こされた津波の映像だったことが字幕で分かりました。映っていたのは、仙台空港の滑走路を流れている波。空港の屋上で津波を眺めている人たちの映像も映っていました。

3.11は、わたしの人生の新しい章の始まりだ、そう思うのはわたしだけではないと思います。わたしは、その日に東北を構成する県と各県の地図上の位置関係を覚え、一度も行ったことのない東北を早く訪ねたくなりました。被災者との連帯を何らかの形で示したいからでした。

その思いを実現させてくれたのは、「All Japan 体制」の被災地への司祭派遣の公募でした。当時、修道会「淳心会」の管区長をつとめていましたが、会員たちに尋ねたところ二人が現地で活動したいという意思を表してくれました。二人は2011年の秋から大船渡市を拠点に All Japan の支援活動に加わりました。わたしも現地での活動の下準備を手伝うために何度か大船渡と周辺の町を訪れました。3年後、すなわち2014年1月、ハルノコー神父の後を継いでカリタス大船渡ベースのベース長の務めを引き受けました。ベース長の傍、仙台教区外国人支援センター長、大船渡教会主任司祭としても務めました。2016年3月11日に、大船渡ベースの開所直後からスタッフとして務めていた菅原圭一氏とベース長を交代しました。

大震災5年後の2016年の夏、大船渡教会の信徒たちは、念願の聖堂や司祭館の改修工事に取りかかりました。工事の話し合いに参加していたわたしも工事の完成を楽しみにしていました。改修された司祭館に長く常駐したいと思っていました。しかし、そうはいかず、2017年の2月、わたしは東京に異動する知らせを受けました。2017年4月末、大船渡を離れてから、いつか仙台教区に戻ってくるという強い思いを抱いていました。

2021年12月1日、突然わたしは教皇大使館に呼ばれ、教皇大使自身から、教皇フランシスコがわたしを仙台教区の司教に任命されたというお告げをいただきました。

日本に来てから東日本大震災までの20年間、わたしは一度も東北のどこの地も踏んだことがありませんでした。東日本大震災がきっかけで東北との縁が結ばれましたが、今回の仙台への帰還を不思議に思っています。

震災直後に被災地に駆け付けて来てくださった菊地功大司教(当時は新潟教区長として)は、3月19日に行われたわたしの司教叙階式の説教の中で『「連帯と相互の献身」を通じた支え合いこそが、いのちを生きる希望を生み出すのだということを、さまざまな出会いが証明してきました」と述べました。大司教の言葉に同感です。

カリタスみちのくのみなさまに、「連帯と相互の献身」と言う震災からの教訓を伝えていただきたいと思います。

2022年3月16日 福島県沖の地震

一般社団法人カリタス南相馬所長 南原 摩利

今年の3月16日に震度6強の福島県沖地震がありました。昨年2月13日にも震度6弱の地震を体験したばかりでしたが、名古屋出身の私としては、人生で最大の揺れを感じた瞬間でした。大きな揺れに立っていることも出来ず、棚から物が落ちていた状態を見ながら揺れが収まるのを待つことしかできませんでした。緊急時の避難バッグを手にもずはカリタス南相馬に向かい、状況を確認後、電話でスタッフ、シスターの方の安否を確認しました。その後、高齢者で独居の方の安否を確認。津波注意報も出ていたので、比較的海に近いお宅にお住まいのサロン参加者の方にお電話すると、「車ですぐに道の駅の駐車場まで避難したが、毛布も持たずに来てしまった」とのこと、カリタスに来ていただいてよいですよ、とお伝えすると、ご高齢のご夫婦二人がすぐにカリタスに来られました。「家では不安でいられなかった。ここなら安心して休めそうだ」とほっとした顔を見ることができ嬉しかったです。

カリタス南相馬は、昨年の地震の教訓から本棚や食器棚など全てに中の物が落ちないようにスタッフが安全対策を施していたため、前回よりも被害は大きくありませんでしたが、皆さんの安否確認を終えた後、自宅に戻ると、時計が落ちて割れていたりタンスは10cm程ずれて移動していたりと足の踏み場がないほど物が散乱していました。朝の4時まで片付けに追われ、2時間ほど仮眠してからカリタス南相馬に戻り、状況を再度確認し合いました。

原町区は、電気も水道も通っていましたが、鹿島区は断水、停電が続いており、大変な状況であることを知りました。災害用に備蓄してあった飲料水や食料を必要な場所に届けたり、被害状況を確認する作業に追われながら、次第に被害の大きさが目えてきました。



南相馬市災害ボランティアセンターが開所されるにあたり、以前から災害協定を結びましょうと社会福祉協議会から依頼を受けていたこともあり、カリタス南相馬はJC(青年会議所)と共に運営側で社協のお手伝いすることとなりました。通常であれば、全国から集まったボランティアさんと共にスタッフも一緒に活動に参加していましたが、コロナ禍のため、県内在住者に限るとのことで常連のボランティアの方にお声がけができな

いのが残念でした。連日、カリタス南相馬スタッフ二人で災害ボランティアセンター運営のお手伝いをしました。内容は、依頼の入ったお宅の現地調査に社協職員と同行し状況を確認。被災状況の写真を撮り、状況をうかがってボランティア活動に行くための資料作成という作業です。今回の被災内容は、瓦が崩れ、ブルーシートをかける作業も多かったのですが、一般のボランティアさんには危険が伴うため、技術系の専門のボランティアさんに限り県外者もOKということになり、抗原検査を行った上で県外からのボランティアさんが入るようになりました。カリタス南相馬によく来られていたボランティアさんの中で屋根のブルーシート張りも行うことが



屋根の上での作業。9月現在も続いています。

できるFさんが長期にわたりカリタス南相馬に宿泊し、ボランティア仲間と声をかけ、「チームふじさん」として数ヶ月にわたって屋根の上の大変な作業を行ってくださいました。感謝です。現在は地元のチームとチームふじさんとで週に2件ほど、ブルーシートの張り替え作業を行っています。安全対策は十

分行っていますが、怪我なく無事に作業を終えられるようお祈りいただくと嬉しいです。

被災されたご家族が1日も早く安心して生活を送ることができるよう心から祈っております。



8月の大雨被害

新潟教区 野村 みか

この度の各地での大雨により被災された方々にお見舞い申し上げます。また、さまざまなかたちでお心を寄せてくださっている皆様に心から御礼申し上げます。

新潟教区にあっては、8月3日からの東北日本海側の大雨による被害が報道されている地域にある教会はいずれも、教会及び関連施設への被害はないとのこと。

教区としてボランティアセンターを立ち上げることはしていませんが、当該各自治体の社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを立ち上げており、教会とは別に職域などでこれらに参加・協力している信徒の方々もおられます。また、8月13日には成井大介司教様も関川村でのボランティアに入り、個人宅の土砂や浸水した家具の搬出などの作業を行なわれたとのこと。

何分にも、コロナ禍が終息していない現状にあっては、無条件でボランティアさんに来ていただくというわけにいかず、居住地やワクチン接種済みであることなど、自治体ごとに設けている条件を満たした上での参加ということになります。引き続き、まずは祈りによるご支援をよろしくお願いいたします。

カリタスみちのくの輪 仲間たちの“今”をお伝えします

岩手・カリタスみやこ

伊藤 純子

カリタスみやこでは、宮古教会でのカフェを続けています。6月には遠州流茶道の阿部先生と教会向かいにお住まいの大森さんのご厚意により、お茶のお点前をいただくことができました。利用者はいつもより少なかったですが、いつもとは違った雰囲気の中で、皆さん緊張した様子でした。



7月のカフェでは、先月のお茶会の話題と、ブルーベリー狩りをしたいという希望があり、早速日時を約束しました。7月30日(土)に岩泉のブルーベリー園へ3年ぶりに行くことができました。長雨が続いていましたが、当日は晴天。参加者は3人だけで、時期がちょっと過ぎていて収穫は少なかったですが、皆楽しい時間を過ごせて満足しました。

7月28日(木)、すすきだ音楽隊「援奏にこにこコンサート」を宮古教会聖堂で開催。午後4時に開演しましたが、平日の夕方前で来場者は多くありませんでした。

残念なことに出演予定だった演奏家のうちのお二人がコロナ陽性と濃厚接触により、出演を辞退されました。それでもトランペットの小林好夫さんとピアノの夢沼明子さんが二人で頑張って演奏してくださいました。のびのあるトランペットと幼稚園から借りた慣れないキーボードを巧みに弾きこなして、聴衆を楽しませてくださいました。みんなノリノリで楽しんでいて、全員、「良かった！」との感想でした。



岩手・カリタス釜石

ベース長 道又 譲



今年は梅雨らしい季節を迎え、暑い日が続く夏を体感している釜石です。

地域の方々が集まる憩いの場【ふいりあ】では、少し前になりますが久しぶりに常連のボランティアの皆さんに来ていただき、数年ぶりの再会に喜びを感じる事ができました。ちょうど七夕の準備に向けての期間でしたので、一緒に飾りを作ったりしました。現時点では再度コロナが全国的に感染拡大して

きたため受け入れはお休みしていますが、また会える日を皆さんで楽しみにしています。さて、ボランティアの皆さんのおかげもあり、写真の通り今年もきれいに飾り付けをして七夕を迎えることができました。来年も皆さんできれいな七夕飾りを作りたいですね。そして、ふいりあの外も、いろいろな花を楽しむことができ、ふいりあに来る人たちが毎日通って楽しいというお庭にリニューアルしました。これから秋にかけてどんな花が咲くのか楽しみです。ふいりあは今日も元気に皆さんのお越しをお待ちしております。



岩手・カリタス大船渡ベース

ベース長 菅原 圭一

カリタス大船渡ベースはコロナ禍の状況を見ながら、基本的な感染対策をして、買物送迎、手芸サロン、英語学習会、スマホ教室、体操教室などの活動を行なっています。残念ながらボランティアさんの受入れはまだ難しい状況です。3月に「まん延防止等重点措置」が解除になり、関西方面からの被災地見学ツアーが来ていただきました。大船渡ベースに到着後、ベース設立の経緯やこれまでの活動、そして現在の活動の紹介をしました。そして11年前の震災の日の映像DVDを視聴し、その映像に映っていた場所に実際に行ってみて、この11年でどのように復興しているか、どのような問題があるかをお話ししながら、大船渡から陸前高田までをご案内し、津波復興祈念公園で海に向かって黙祷を捧げ、奇跡の一本松を見学してお見送りしました。「やはり、現地に来てみないと分からないことがあるね」というお声をたくさんいただきました。ツアーの3つ目が終わったところから、新型コロナの感染がまた拡大してきて、今第7波が猛威を振るっています。7月の末に京都・洛星高校の皆さんがいらっしゃる予定でしたが、感染拡大の状況から、やむなく中止にしました。中止にはしたものの、せっかく被災地学習の準備を進めてきたのだからと、大船渡ベースと洛星高校の教室をZOOMでつないで、「オンライン被災地学習」を行ないました。参加した高校1年生の生徒の皆さんは震災発災時はまだ小学校入学前とのことで、皆さん真剣に話を聴いてくださいました。また回を重ねて開催して、内容を深めていくことができればと思っています。



この11年でどのように復興しているか、どのような問題があるかをお話ししながら、大船渡から陸前高田までをご案内し、津波復興祈念公園で海に向かって黙祷を捧げ、奇跡の一本松を見学してお見送りしました。「やはり、現地に来てみないと分からないことがあるね」というお声をたくさんいただきました。ツアーの3つ目が終わったところから、新型コロナの感染がまた拡大してきて、今第7波が猛威を振るっています。7月の末に京都・洛星高校の皆さんがいらっしゃる予定でしたが、感染拡大の状況から、やむなく中止にしました。中止にはしたものの、せっかく被災地学習の準備を進めてきたのだからと、大船渡ベースと洛星高校の教室をZOOMでつないで、「オンライン被災地学習」を行ないました。参加した高校1年生の生徒の皆さんは震災発災時はまだ小学校入学前とのことで、皆さん真剣に話を聴いてくださいました。また回を重ねて開催して、内容を深めていくことができればと思っています。



オンラインで被災地学習。いつか現地でお会いしましょう！

宮城・一般社団法人カリタス南三陸

千葉 道生

個別訪問を繰り返す日々の中で印象的な出来事があった。少し世の中が落ち着いてきたタイミングで「仮設住宅のお茶っこメンバーで遠足に行きたいね」と要望が聞こえてきたので、スタッフが皆さんの都合や希望を聞いて回っていた。お茶っこの開催が難しい中、高台移転で離ればなれになった高齢者の方々の伝言も預かり伝



えているスタッフの姿勢に感銘を受けると同時に、多くのボランティアやスタッフが築いてきた縁が、今でも続いていることがとても嬉しかった。

チーム・カリタス仙塩「石巻ベースでのボランティア再開」

北仙台教会 福田 昌子

4月25日、石巻ベースのオープンスペース再開にあたり、ボランティアの要請が「心の港」のシルヴィさんからありました。コロナ前の私たちの活動を知ってのことでした。私たちは「チーム・カリタス仙塩」のメンバーとして石巻ベースに行っていたことを伝えました。

このことを受けて、チームの各小教区代表が集まり、ボランティア派遣について話し合いをしました。と同時に、このグループの活動を再開することを確認しました。

5月11日から毎週水曜日に、石巻へ行き始めました。懐かしい場所で懐かしい人々とのおしゃべりは楽しいものでした。

しかし、7月にコロナ感染者増加に伴い、再びオープンスペースは閉鎖となりました。コロナ禍のボランティアということを痛感しました。今後もリスクを最小限にすることを考えながらも、神様の良き道具として活動していきたいと思います。



＊嬉しいお知らせです。9月から石巻ベース再開です！早速ボランティアの声かけをしました。

オリーブの会「お茶と琴の会 実施の選択」

八木山教会 野田 和雄

オミクロン株の拡大の中で傾聴ボランティアを続けられるのか？ オリーブの会企画の長嶋治夫さん(亙理教会信徒)は悩みました。被災者リーダーの青田さんの「危ないと思う人は出てこない」「人数が少なくても参加したい人がいるので、やってほしい」との言葉に励まされ、7月の実施を決めました。

オリーブの会は亙理教会の聖堂で祈りから始まります。津波被災者と仮設住宅集会所で出会ってから10年以上になり、今では互いに親戚のように思っています。

7月27日は七夕茶会と琴のコンサート、昼食付のフルコースに25人が参加しました。聖堂の床に絨毯を敷いて、七夕茶会は着物姿の近藤宗初さんの解説から始まります。七夕のテーマの書・花・菓子の説明のあと、美味しい菓子と茶がふるまわれます。もうせんの赤、抹茶の緑、着物の白が鮮やかです。

琴は我妻久美先生、リクエスト曲「君をのせて」「地上の星」は十七弦の音が心に響きます。「ソーラン節」「夏の思い出」は曲に合わせて歌います。仮設集会所の歌集が今も現役で使われています。

オリーブの会は傾聴ボランティアが教会で祈る仲間となった珍しい存在です。多くの人の祈りとご支援に心から感謝しています。



福島・一般社団法人カリタス南相馬

所長 南原 摩利

カリタス南相馬では、コロナ禍でなかなか団体宿泊を受け入れられませんでした。今年の夏は3年ぶりに学生さんのボランティアを受け入れることができ大変嬉しく思います。東星学園高等学校(東京)、京都暁星高等学校、広島学院高等学校の3校の高校生がカリタス南相馬を訪れ、感染対策を十分行った上で迎えすることができました。初めて福島県南相馬市を訪れる生徒さんがほとんどなので、現地をご案内する前に、こちらの現状をスライドで説明させていただき、復興の進んだ場所、そうでない場所、伝承館や廃炉資料館など、原発事故が住民の生活にどのような影響を及ぼしたのか等、机上では学べないことを学ぶ機会となったかと思えます。原発事故による避難で高齢者世帯が半数以上となっている地区での除草作業も、炎天下、頑張ってください。依頼主の方は「この地域は若い人がいなくなったから、こうやって若い高校生の皆さんを見ているだけで元気が出ます」と笑顔で話されました。福島県の原発被災地で起きている高齢化やエネルギー問題といった課題を考えることは、日本の未来を考えることに繋がります。次世代を担う若い方たちに、ぜひ福島の実情を知っていただきたいと願っています。



左・東星学園高等学校 右・京都暁星高等学校の皆さん

みちのく掲示板

カリタスみちのくの集い 参加者募集



カリタスみちのくでは、年に3回、全国の皆様とつながって「カリタスみちのくの集い」を行っています。カリタスベースのスタッフ、各地で活動をされているボランティアの方々などが集い、顔を合わせて現状報告と分かち合いをしています。コロナ禍が続く、出向いていくことが難しい時期が続いていますが、それぞれの場所の「今」を知る機会となっています。どなたも参加できますので、ぜひカリタスみちのくまでメールにてご連絡ください。次回は2023年1月に開催する予定です。

カリタスみちのく 寄付金受付の口座ができました

カリタスみちのくでは、東日本大震災被災地支援をきっかけに始まったつながりを今後も絶やさず、新たな輪を広げていくために、メーリングリスト、SNS、ニュースレターでの情報発信、集いの開催を中心に活動を続けていきます。今後の活動継続のため、ご支援を受け付けています。

口座名称 カリタスみちのく

ゆうちょ銀行〇一九(せいのけい)店 当座0636160

郵便振替口座 口座番号 00180-3-636160

みちのく世話人のつぶやき

「ころなないろ」第3号、いかがでしたか。右のイラストは、カリタス石巻ベースのオープンスペース常連、加美山 隆さんの作品です。絵手紙や切り絵、木工など、さまざまな作品で皆さんを楽しませてくださっています。今回はタイトルの背景にも加美山さんの切り絵を使わせていただきました。今までの作品の中で一番私の心に残っているのが、へとへとに疲れた時に渡してくれたこの笑顔の招き猫。一緒に歩む仲間がいること、そう、「あなたは一人じゃない」ことに気づかせてくれた一枚です。(カリタスみちのく 世話人 濱山 麻子)

